

都市デザイン研究室 2007年を振り返る

教授・助教が語る、「2007年」

2007年も残すところあと10日。今回のマガジンは、「年末特大号・2007年を振り返る」と題してお届けします。

それにあわせて、西村教授、北沢教授、野原助教、中島助教に研究室メンバーにむけたメッセージをいただきました。

西村幸夫 教授 「この1年で印象に残ったもろもろのこと」



印象に残った都市

海外ではサントペテルブルク：首都を作るという300年前の心意気を感じました。そして良質な建築が残されており、良好な経済に支えられてそれらのほぼ8割の修復が進んでいる印象でした。このことは『季刊まちづくり』の第16号に書きました。

そして国内では高野山：つい最近まで女性が住むことさえできなかった不思議な宗教都市です。

印象に残った場所

海外では麗江の都心部：雲南省にあるナシ族が作った世界遺産の集落ですが、その都市空間としての質の高さと近年のすさまじい観光化とのギャップに驚きました。

国内では和歌山市の日前（ひのくま、と呼びます）社の古代風景と若狭の三方五湖のひとつ、水月湖の静寂。

印象に残った本

近刊では藻谷浩介著『ニッポンの地域力』、古い本では勝海舟著『氷川清話』。後者は明治維新前後

から政党制が成立するくらいまでのなまなましい息づかいの話が続きます。勝海舟の剛胆な魅力と時代を読む鋭い目が今日にも生きてくる気がしました。講談社学術文庫版がいいようです。西郷隆盛との江戸城無血開城の話も載っています。そのときのコメント、「・・・都府というものは、天下の共有物であって、決して一個人の私有物ではない。江戸城引払いの事については、おれにこの論拠があるものだから、誰が何と言ったって少しも構はなかったのサ。」

印象に残った人物

今年は生誕150周年であったこともあって、後藤新平のことをいろいろ考えさせられました。NHKのETV特集の後藤特集の番組作りをお手伝いすることなどが、将来を見通すことの大切さ、重要な時点での一瞬の判断が長年にわたる周到な調査に支えられていることなどを学びました。

印象に残ったコメント

3月はずっとパリの社会科学高等研究院で客員教授で教えていましたが、日本の町並み保全のことを

紹介すると必ずといっていいほど、まちの変化にオーセンティシティの根拠はあるのかとたずねられたこと。つまり私たちがやっていることは西欧の目からは保全ではなく改善だと映るということです。それはおそらく正しいのでしょう。日本の保全とはある文脈に沿った改善なのだといえるということを知られたこと。その「ある文脈」を探り当てることが重要なですね。

印象に残った活動

越中八尾での研究室の学生諸君の活躍がとても印象に残っています。よくやってくれました。

印象に残った仕事

『証言・町並み保存』としてまとめられた一連の対談。これはその後も続いていて、やはり『季刊まちづくり』に連載中です。これも将来は1冊の本にしたいと思っています。

北沢猛 教授 「本郷そして柏の研究室の皆さん。」

今年はどういう年でしたか。当研究室の特徴でもあるプロジェクト研究やデザインスタジオも巾を広げており、地域にもそして皆さんにもいい刺激となっていると思います。さて、わたしは体調を崩すこともなく活動ができます年でした。

久しぶりに、旧大野村を訪ねて、新町長そして役場や地元の人たちと話し酒を飲み交わしてきました。村には大きな変化はありませんが、着実に前に動いていると我々の計画に手応えを感じました。やはり都市づくりや地域づくりは時間がかかるものです。

新しい試みとしては昨年末に設立したUDCKが無事1年を迎え、多くの人がこの活動に参加してきました。前田さん（工学博士）や丹羽さん（環境学博士）を

はじめとして、4名の強力な専門スタッフを迎え、充実した展開となっています。来春は若いスタッフが1名加わります。こうした地域に密着し専門性の高い『アーバンデザインセンター』に関心を持つ市長さんなどもおり、273の都市で検討が始まっています。

わたし自身が挑戦してきた自治体の「政策参与」もいつのまにか5年が過ぎ、横浜市参与として立案した政策（創造都市構想）が第一段階の実施を終えて、その評価と次なる展開が議論されるころまできました。また、京都府の行政評価（マニフェストと評価）や千葉県戦略プロジェクトにも、アーバンデザインの専門家が果たす役割が大きいと実感したところです。

ところで、今年の後半からはサバティカル、学務を免除された研究研修期となっています。この際に、今までできなかったことをしようと幾つか考えているのですが、まず社会人（公務員や民間人、大学人、専門家）を交えた実践学校（UDSY研究会・BankART）を開催しています。研究室の学生有志にもサポートをお願いしました。予想以上の総員80名程となり運営も大変ですが、次世代の『環境空間政策』を問う講義や議論ができたと考えています。来年前半は海外にて研究も行いますが、いずれにしても環境空間政策から『空間計画』までを現場から、体系を考え自治体とともに実行をしていこうと思います。



野原卓 助教 「それでもなぜか走り出す」

師も走る12月、師には程遠い私も、ご多分にもれず、あちらこちらを走り回っています（実際にジョギングしたのは今月1度きり）。

今年は、研究室も大盛況だった気がします。新宿、喜多方、越中八尾、京浜、浅草、鞆、高山、柏・・・、思えば、私の修士時代は、自分の関わったプロジェクトと言えば、岩手釜石のプロジェクトと福岡のプロジェクトくらいで、現在のように、研究室を挙げて熱気ある日々が送られているのを見て、当時の私は、羨望の眼差しであります。

まちに関わるということは、とてもアクティブな活動でありながら、終わりのない旅でもあります。どれだけやっても完璧はなく、何でもいからただやればよいというものでもなく、やったことが活かされるとも限らない。それでも、赤レンガ倉庫から見える煙突の煙を、凛として立つ座敷蔵を、ゆらぎ坂の斜面緑地を、出格子から窺われる灯りを追いかけてしまうのです。

時に、ふと立ち止まってみれば、テラスから見る青空に、きらめく夕陽に、黄金の銀杏に、感慨もまたひとしおとなるわけですが、それでも、なぜか走り出す・・・そんな来年になるのでしょうか（実際に走るの、月2回に増やしたいと思います）。



中島直人 助教 「この先のまちの風景へ」

2007年は幾つかの賞を頂き、愛読していた幾つかの機関誌や雑誌の目次に自分の名前を載せることができました。八尾、鞆、新宿、構想力、浅草などの研究室の仲間たちとの取り組みも、それなりの充実を見せました。しかし、今年一番の自慢はと問われれば、とにかく多くのまちを歩き倒して、二足、靴を駄目にしたことと答えたいと思います。

「この先にあるまちの風景を知りたい」一心で、寒空の下、炎天の下、歩き続けました。新宿の四谷、筆筈、榎の各地区をはじめ、プロジェクトでは粟島や尾道、観音裏、奈良町、共同研究では錦糸町や亀戸、滝野川、個人的な仕事で町田や松山、ジョグジャカルタ、コタゲテ、シンガポール、プライベートでは善福寺や石神井、雑司ヶ谷、大塚、岐阜、美濃、そして大学から自宅までの帰路35分の道のりに広がるまちたちを、時に遊歩者として、時に計画者として、この身体でじっくりと味わいました。

ところで、スリランカのコロナボでは、テロ厳戒地区であることを忘れてついつい気分よくストロールしていたら、いつか警官に拘束され、理不尽にもカメラを没収されそうになりました。彼の手からカメラを取り戻し、解放されるためには不当な大金を払わざるを得ませんでした。私たちが意識せずに手に入れている都市における遊歩の自由は、尊い平和や安定した秩序の上に成り立っているのだと改めて実感した次第です。

そう、来年こそはこの世界に平和が訪れ、誰もが安心して都市を遊歩することが可能になりますように。そして、私自身は都市味倒の態度で都市計画学という学問に取り組みつつ、幾つかのまちのまちづくりの支援に今まで以上の力を注いでいられたいように。そんなことを思う、年の瀬です。



プロジェクトの一年

プロジェクトを中心として、その他にもコンペやwsへの参加など、積極的な活動が見られた2007年。今年発行されたマガジンを参考にして2007年度になった4月からの活動を中心に研究室の今年の動きをまとめてみるとともに、各プロジェクトのメンバーに今年を振り返ってもらいました。

鞆

M2 ウィチエンプラディット・ポンサン

鞆プロジェクト2007の最大の目標は「鞆雑誌2008」の発行でした。今回のテーマはズバリ「港町の観光まちづくりネットワーク」です。そのため、夏は鞆以外に粟島、尾道、室津の3つの瀬戸内海の港町を訪問・調査を行った。冬は一つ追加で、御手洗を対象に加えた。それに昨年調査した瀬戸田と合わせて、来春の雑誌発行へ向けて、現在編集作業を進めています。

もう一つのテーマは「北前船」であり、これによる例のネットワーク形成を探るべく、全国の北前船に縁のある自治体を対象として「北前船関連観光資源調査」を実施しました。その調査結果を題材に書いた論文が(財)アジア太平洋地域交流センター主催のコンクールで優秀賞(一席)をとりました。



八尾

M2 伊藤雅人

今年度はまちづくりの担い手育成・気運の醸成を目的とした「まちづくり大学」を開校し、4回にわたる住民向けセミナーをはじめ展示会、ウォークラリーを企画しました。さらに西町・上新町のサポートまで、盛り沢山な上初めての試みも多く、一つ一つ試行錯誤を繰り返して来たという印象です。その中では提案や活動に対し思うような反応を得られないことも多く、人を動かし物事を前に進める難しさを再認識しました。



しかし同時にいくつかの企画では住民の方々に良い評価を頂きました。外部の人間としてまちづくりに関わる上で、「結果はすぐに見えなくても、とにかく行動すること、発信し続けること」を今後も肝に銘じたいと思っています。

浅草

M1 鈴木惇也

浅草プロジェクトは今年が初年度ということで大変のびのびとした自由な雰囲気でも始まったのですが、頼れるM2がないという事実は想像以上にプロジェクトを路頭にまよわせることになりました。ゆるーりと調査をしていた空気について中島さんも焦り、10月11月に急加速して提案カードの作成と二回のワークショップを行う運びとなったのです。提案としては詰められていない甘っちょろいものですが、とりあえず「観音うら」に目を向けます、という意思



表示に対して満足して頂けたようです。今後は、人気のあった提案カードについてさらなる意見を集め、詰めて真に観音うらの為になる活動をしていきたいと思います。

1月	研究室全体	鞆	喜多方	八尾	新宿	WSいろいろ	京浜
2月 5, 6, 7日	2006年度末ジュリー						1月 20日 シンポジウム
3月 22日	大学院修了式		3月 11日	3月 15日			3月 28日 プロジェクト報告会
3月 23日	学部卒業式						
4月	入学式・新入生歓迎会						
19日	都市工OB会						
4月							
17日、23日	メキシコ大との交流会						
5月	マガジン50号!!						
19日	4年生歓迎会						
5月							
9, 10日	今年度初訪鞆						
6月							
23~25日	現地調査						
6月							
18日	メルボルンws発表会						
7月							
26, 27日	夏学期ジュリー						
31日	林さん韓さん博士論文審査						
7月							
31, 1日	のれんws第一回						
8月							
29~31日	建築学会研究室旅行ラッシュ						
6日	送別会・歓迎会						
8月							
25, 26日	のれんws第二回						
8, 9日	のれんお披露目会						
9月							
22日	まちづくりセミナー第一回						
23日	ウォークラリー開催						
9月							
5日	くらはく開催						
13日	まちづくりセミナー第二回						
20日	まちづくりセミナー第三回						
10月							
29日	都市工秋の大運動会開催						
29日	新入生歓迎会						
10月							
30日	浅草提案発表会						
11月							
11日	まちづくりセミナー第四回						
14日	提案発表会、ws						
12月							
12日	提案発表会、ws						
15日~19日	現地調査						
12月							
4日~6日	現地見学						
25日	UDSY 2007						
18~21日	京都調査						
6日	提出						
13日							

喜多方

D1 鈴木智香子

2000年から始まった喜多方プロジェクト。2007年は、これまでの取組みを総まとめとして、広く市民に知ってもらい、まちの方向性を共有しながら具体的な取組みにつなげることをしたい...そこで企画したのが「蔵のまちづくり博覧会(くらはく)」でした。いざ企画を具現化しようとする、やりたいことが多すぎたりして本当に大変でしたが、でも、地元の方々と幾度となく議論を重ね、結果的には喜多方でかつてないほど多様な方々が協力し合って、3会場でのまちづくり展示会、フォーラム、語り合い、くらにわ(社会実験)、蔵カフェ、おもてなしの花小径等々を見事実施することができ、非常に意義深い「くらはく」となりました。

年明け3月には喜多方まちづくりのまとめ冊子をつくる予定です。



新宿

D2 中島伸

2007年新宿プロジェクトは昨年から続く筆筈・落合第一の修正作業を昨年度内で完了させました。春、新年度に入り、新M1全員参加で残り2地区、榎・柏木地区の調査を行いました。これを昨年度に現M2を中心に築き上げたノウハウをフル活用し、短期集中で夏には作業完了させました。秋から新宿区の景観審議会にて、調査内容が反映された景観計画の審議が始まっています。(実は、審議会の資料作成が今年のヤマだったように思います。)

今後、新宿プロジェクトはさらに調査内容を地域住民の方に景観を理解していただけるよう、いろいろなアイデアを盛り込んだ景観ガイドブックを鋭意作成中です。



高山

M1 大道亮

2007年10月下旬、様々なプロジェクトが一段落しようとしている頃、高山プロジェクトは産声をあげました。11月に早速訪高。提案対象数地の越中街道のみならず、美しい街並みとして名高い三町や吉島家住宅、飛騨牛、飛騨の酒などなど、飛騨高山を"調査"しつくしました。

東京に帰ってきてからは、年明けの訪高に向けてミーティングを重ねています。

「街並みの美しさとは何か」「なぜ壁面線を揃えなくてはならないのか」といった、超少人数プロジェクトだからこそ問える根本的な命題をも議論しつつ、2007年を終えようとしています。

